



撮影・米山要

東日本大震災追体験イベントを企画した慶大生

顔

千葉 眞英さん 20

岩手県大船渡市

震災で父を亡くした宮城県

の出身。東日本大震災では高台の高校にいて難を逃れたが、海に近い自宅は津波で流され、母と祖母を失った。「どうにか助けることはできなかったのか」と自分を責めた。生き残った理由を考えながら、がれきを片づけているうちに「町づくりの仕事に就き、故郷の復興に尽くしたい。母や祖母もそう望んでいるはず」と思えるようになった。震災の遺児らを支援する民間団体「ビヨンドトゥモロー」(東京)の奨学金を受け、慶大に進み、地域行政などを学ぶ。

震災で父を亡くした宮城県石巻市の女子大生とともに2月下旬、「被災地追体験イベント」を企画した。団体の呼びかけで集まった会社員など6人とともに、多くの子どもが亡くなった同市の大川小などを訪れ、被災地の現実を話した。

首都圏にいと、震災が早くも風化しつつあると感じる。「過去のものではないことを伝えたい」。今後、首都圏の学生らにも参加を呼びかけ、2回目を開くという。「たくさんの人に訪れてもらうことが復興につながる」

(生活部 田中左千夫)